

(別紙) 成果報告書

若者への魅力ある情報の発見と発信方法に関する研究

常葉大学 健康プロデュース学部

研究代表者：山田 雅敏 (情報科学研究室)

1. 要約

本研究は、情報科学の視座から、オノマトベによって焼津市の魅力を発見、情報発信し、地図上に可視化することを試みた。研究調査には、大学生および一般参加者40名が参加し、スマートフォンアプリ「100ninmap」を用いて、焼津市のオノマトベ地図を作成した。加えて、傍証研究として、大学生128名対象に、焼津市に関するアンケート調査を実施した。

2. 研究の目的

本研究は、情報科学の視座から、オノマトベによって焼津市の魅力を発見、情報発信し、地図上に可視化することを主たる目的とする。加えて、傍証研究として、大学生128名対象に、焼津市に関してアンケート調査を実施し、情報を収集することを目的とした。

3. 研究の内容

はじめに、本研究は、焼津市、常葉大学、京都大学と連携し、遂行した。

11月15日、16日の両日に、焼津市役所の担当者および、研究分担者の北雄介（京都大学）との打ち合わせ後、焼津市内のフィールド調査を実施した。

その結果、オノマトベ（擬態語・擬音語）を使った同市の地図作りを決定した。オノマトベとは、ものの音や声などをまねた擬音語（ポタポタ、じょきじょきなど）や、状態などをまねた擬態語（キラキラ、ワクワクなど）を意味する。従来の地図が、観光地や店舗など定型化された情報を一方的に伝えるものであったのに対し、オノマトベを用いれば「賑やかさマップ」「涼しさマップ」などのこれまでにない曖昧な雰囲気を含む多様な地図を、多くのユーザーの集合知によって作りあげることが可能となる。

集合知の収集方法として、北雄介先生らが開発したスマートフォンアプリ「100ninmap」を用いた。このスマートフォンアプリは、街を歩いて見つけたものや感じたことを、オノマトベと自由記述の形式で発信すると、その内容が位置情報とともにサーバーに収集され、自動的に「街の感じ方」の地図が作成されるソフトである。

次に、焼津オノマトベのイベントの研究協力者の募集告知を行った。フライヤーおよび、ポスターは、焼津市役所内、常葉大学本部、常葉大学浜松キャンパスに掲示した。

そして、2月2日に開催された同研究のイベントには、大学生および一般参加者の計40名が参加した。当日は、参加者が、焼津市内を約4時間かけて散策し、スマートフォンを使って、同市の魅力を発見、情報発信することを試みた（右画像）。その結果、オノマトベ情報計533件を収集した。



4. 研究の成果

(1) 当初の計画

- ① 焼津市の現地調査や文献調査を行ない、焼津市の魅力発見に最も適した、アプリでの発信方法や可視化方法を検証する（10-11月）。
- ② それを元にアプリをカスタマイズする（11-12月）。
- ③ 常葉大学の学生数十人程度に、焼津の街を歩いてこのアプリを使ってもらうことで、最終成果品としての地図を作成する（1-2月）。

(2) 実際の内容

A：研究はほぼ計画通り、実施された。

- ④ 平成28年11月15日～16日：事前打ち合わせおよび、フィールド調査
- ⑤ 平成29年1月～2月：焼津オノマトペイベントの告知
- ⑥ 平成29年2月2日：焼津オノマトペイベントの実施

(2) 実績・成果と課題

研究実績として、学術的には533件の情報を収集でき、地図作成までの方法論の精度を高めることができた。また、実践的には、完成した地図を焼津市の魅力をアピールするための広報資料として用いることができると予想される。さらに、次年度以降、広くアプリを使って焼津市を歩いてもらい、地図を発展させることも期待できる。今後は、得られたオノマトペのデータをもとに分析および、焼津市のオノマトペ地図の最終校正を行うことが課題として挙げられる。

なお、主な研究・広報に関する実績は、以下の通りである。

【主な研究・広報に関する実績】

- 山田雅敏，北雄介：「平成 28 年度静岡市・焼津市地域課題解決事業 若者への魅力ある情報の発見と発信方法」，常葉大学研究推進委員会浜松分会，第4回浜松アカデミック・カンファレンス，2017年2月10日，口頭発表
- 常葉大学公式ホームページNews&Topics，若い感性「オノマトペ」で焼津市の魅力を発信，2017年2月9日掲載，<http://www.tokoha-u.ac.jp/news/170209/index.html>
- 静岡新聞夕刊掲載，焼津の魅力「音」で表現 常葉大・京大 オノマトペ地図製作，平成29年2月23日【別紙の添付資料を参照】
- 日本認知科学会第34回大会，2017年9月13日（水）～15日（金），金沢大学開催【発表予定】

(3) 今後の改善点や対策

今後の改善点として、オノマトペ以外の街の魅力発見の手法を開発することが考えられる。そのための対策として、スマートフォンアプリの新たなモード追加の考案を予定している。

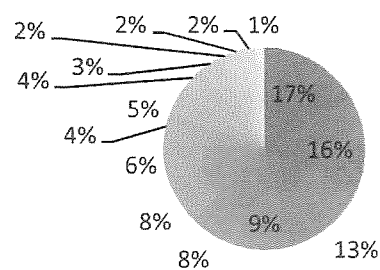
5. 地域への提言

大学生が実際に焼津市のイベントに参加し、散策することによって、同市に対して興味・関心を持つと考えられる。たとえば、傍証研究のアンケート調査の結果において、大学生の視点から「行ってみたい」「体験してみたい」と思う焼津市の場所に関しては、上位に「焼津さかなセンター（16.7%）」「ディスカバリーパーク焼津天文科学館（15.7%）」「天然温泉（13.1%）」「YAIZU ILLUMINATION DREAM（9.1%）」が挙げられた。今後、大学機関と連携し、大学生が興味を持つ場所を対象としたイベントを定期的実施することが有効であると考えられる。

- アンケート調査結果：「大学生の視点から、焼津市公式ホームページを閲覧して、行ってみたい、体験してみたいと思う場所を書き出し、その理由を述べてください。」

項目	人数	割合
焼津さかなセンター	33	16.7%
ディスカバリーパーク焼津天文科学館	31	15.7%
天然温泉	26	13.1%
YAIZU ILLUMINATION DEAEEM	18	9.1%
その他	16	8.1%
アクアスやいづ	15	7.6%
深層水ミュージアム	12	6.1%
みかん狩り	9	4.5%
絶景, 穴場, パワースポット	9	4.5%
焼津漁港	8	4.0%
焼津市歴史民俗資料館	6	3.0%
ふるさと納税	4	2.0%
花沢の里	4	2.0%
海水浴場	4	2.0%
焼津祭り	3	1.5%

- 焼津さかなセンター
- ディスカバリーパーク焼津天文科学館
- 天然温泉
- YAIZU ILLUMINATION DEAEEM
- その他
- アクアスやいづ
- 深層水ミュージアム
- みかん狩り



- 焼津オノマトペのイベントに関する参加者の感想の例（原文ママ）
 - ・ 「のびのび（今日は初めて焼津市内を歩き回りました。全部は行けませんでした。焼津市内の街並み、雰囲気を感じることができました！また機会があったら参加したいです！）」
 - ・ 「わくわく（いろんな発見があって全く知らない街でも楽しめました。）」
 - ・ 「ほくほく（たくさん笑いました。楽しかったです。美味しいものもたくさん食べることが出来てとてもいい思い出を作ることが出来ました。心がほくほくです笑）」
 - ・ 「どどーん（想像以上に楽しかったです。制限されたなかで表現するたのしみもあり、焼津の街をじっくりあるけて楽しかったです。）」
 - ・ 「だぁぁぁぁ（オノマトペは、普段知らないうちに使っているのかなぁと思いました。分かりやすく面白いマップが出来るといいです。）」
 - ・ 「イェーイー（思っていたよりもすごいのしかったです！画像を載せることができた後からみたらもっと面白くなると思いました！）」
 - ・ 「ほっこり（普段焼津に来た時は車で来るのでどうしても街並みを感じることはできなかったけれど今回歩いて回ったことで知らないお店や施設が発見することができてすごく楽しかったです。）」

6. 地域からの評価

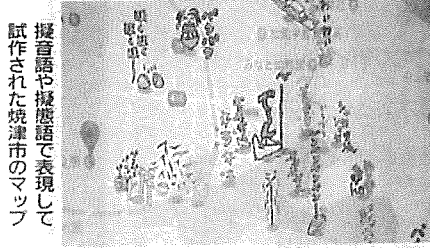
研究資料の新聞記事にあるように、本研究に対する地域からの評価は高いと予想される。

今後は、課題・改善点などを活かし、次回の研究実施に向けて取り組みたい。

- 研究に関する資料
静岡新聞社 平成29年2月23日夕刊掲載（掲載許諾申請）

焼津の魅力「音」で表現

「うねうね」「ほくほくほー」「ギョギョギョ」



擬音語や擬態語で表現して
試作された焼津市のマップ

焼津市と京都大常葉大が連携し、オノマトペ（擬態語・擬音語）を使った同市の地図作りに取り組んでいる。「わくわく」「キラキラ」など、若者たちが港町で肌身に感じた生の声を大量収集して分析。地図上にまとめ、新たな視点で観光資源や地域の魅力を発信する。
（焼津支局・安本渉）

取り組みは静岡市・焼津市地域課題解決事業助成金を活用した試みで、若者への街の魅力ある情報発掘と発信方法を探るのが狙い。京都大大学院融合教育研究推進センターの北雄介特定講師（34）らが開発したスマートフォン（34）に本県内外出身の学生たち40人が焼津市を訪問。焼津漁港でのカツオの水揚げや港町風情が残る街並みを見たり、魚料理を食べたりした。街中を約4時間かけて散策し、海の水面（みなも）を「うねうね」、飲食店で食べたコロッケの味を「ほくほくほー」とつぶやき、を計533件投稿した。北講師によると、オノマトペマップを製作するのは京都市、滋賀県大津市に続く。

はじける世代を深く
Dee op
ディーポップ

常葉大 オノマトペ地図製作



港や街中で感じた気持ちをオノマトペで投稿する大学生
＝焼津市の焼津漁港

焼津市が全国で3都市目。北講師は「感情や感性から出た言葉にはインパクトがある」と従来の観光マップなどとの違いを強調する。マップは地図上のオノマトペにイラストを加え、紙媒体やインターネットで公開する予定。焼津市広報課の担当者は「目を引くような表現が多く、どんな場所なのかイメージが膨らむ」と語り、観光振興やまちづくり施策への活用を見据えている。

- 常葉大学公式ホームページNews&Topics、若い感性「オノマトペ」で焼津市の魅力を発信、2017年2月9日掲載、<http://www.tokoha-u.ac.jp/news/170209/index.html>

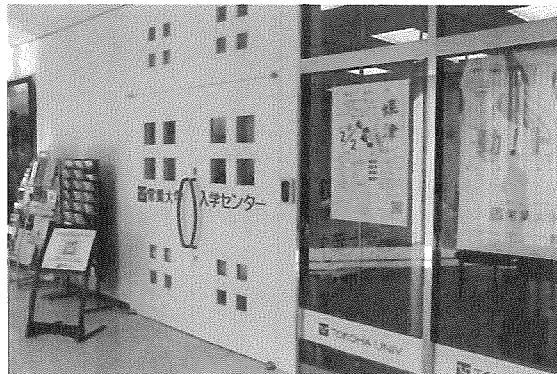
■ 研究活動の写真

● フィールド調査 (11月15日～11月16日)



・ 焼津市内をフィールド調査 (2日間)

● 焼津オノマトイベント告知 (平成29年1月～2月)



・ 焼津市役所, 常葉本部, 常葉大学内に告知

● 焼津オノマトイベント当日 (平成29年2月2日)



・ 大学生および, 一般参加者40名が2月2日のイベントに参加



・ 事前の説明風景



・ スマートフォンを使ったオノマトペ発信風景

※ イベント参加者の写真, 個人情報に関する掲載承諾済み

